

令和 3 年 4 月 13 日

(※受付番号)

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立淀商業高等学校
 校 園 長 名 : 村上 憲文
 電 話 : 06-6474-2221
 事務職員名 : 高月 旭
 申請者 校 園 名 : 大阪市立淀商業高等学校
 職 名 ・ 名 前 : 指導教諭 辻本 智加子
 電 話 : 06-6474-2221

| |
|-------------------------|
| 研究コース |
| グループ研究 A |
| 校 園 コード (代表者校 園 の市費コード) |
| 633515 |

令和 3 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

| 1 | 研究コース | コース名 | グループ研究 A | 研究年数 | 継続研究 (3 年目) |
|---|-------|---|----------|------|-------------|
| 2 | 研究テーマ | <p align="center">未来型介護に対応した介護・福祉人材の育成に向けて ～主体的・対話的で深い学びを通じて地域共生社会で必要とされる協働力を育む～</p> | | | |
| 3 | 研究目的 | <p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>2025 年は団塊の世代 (1947 年～1949 年生まれ) が 75 歳以上の後期高齢者となる年であり、利用者一人ひとりの尊厳のある生活を支援する介護福祉士に対する社会的要請が一層高まっている。本学科は大阪府内の公立高校で唯一の福祉に関する専門学科であり、研究 3 年目の集大成として次の 3 つの視点から研究を行う。</p> <p>I 介護・福祉ニーズの多様化・高度化に伴って介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力を育成する。</p> <p>II 新型コロナウイルスなどの感染症に対する標準予防策 (スタンダード・プリコーション) について介護従事者の視点から実践できる力を育成する。</p> <p>III 介護福祉を学ぶ専門的な立場から、コロナ禍だからこそ高齢者の方と繋がりを大切にする地域の支え合い活動を考え、地域共生社会の実現に向けた地域住民と協働できる実践力を育成する。</p> | | | |
| 4 | 研究内容 | <p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>2 年目の研究では、新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たず、高齢者施設等へ出向いての介護実習やボランティア活動はやむを得ず中止した。実習やボランティア活動の経験は、生徒にとって学習した介護知識や技術を深化させ、福祉マインドを育成させる重要な場であると実感した一方で、リモートによる介護実習など新たな教育方法を開発することができた。本年度はコロナ禍においても教育の質を保つために教員の指導力向上をめざして、系統だった職業教育の充実を図り、次の 3 つの視点から研究を深める。</p> <p>I 介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力の育成</p> <p>【学力・専門性の向上】</p> <p>① ICT やアクティブ・ラーニングを活用した介護知識・技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の録画・再生機能を活用し、介護技術の向上を図る。 ・アクティブ・ラーニングを活用し、介護を言語化できる能力の育成を図る。 ・課題解決能力の育成に向けてアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を行う。 <p>② 高齢者施設等へ出向いての介護実習の学習に代わる効果的な校内実習・演習の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモート実習を通じて利用者の方に応じたよりよいコミュニケーションを図る。 ・介護福祉士等の専門職と連携した特別授業を通じて教員の指導力の向上を図る。 <p>③ 一定のレベル、専門性を証明するための介護に関する資格取得の奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習における学習意欲を高めるための学習方法の研究を行う。 ・介護福祉士国家試験問題の本学科生の正答率を分析し、苦手分野の克服を図る。 <p>II 介護従事者の視点から新型コロナウイルスなどの感染症に対する標準予防策の実践</p> <p>【専門性・実践力の向上】</p> <p>① 介護従事者の視点を持った感染症に対する標準予防策についての教育内容の深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場における看護師等による特別授業を行い、専門性・実践力を高める。 <p>III 未来を切り開くコロナ禍に対応した地域福祉活動の実践</p> <p>【地域社会との協働・課題解決能力の育成】</p> <p>① 「with コロナ」に対応した新しい地域福祉活動・ボランティア活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会と連携した地域福祉活動を通じて福祉マインドの育成を図る。 | | | |

| | | |
|---|----------------|--|
| 5 | 活動計画 | <p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 研究テーマの設定、計画立案、福祉施設との効果的な介護実習内容についての検討 【資格取得】介護職員初任者研修講座（2年）[4月～3月]</p> <p>5月 【研究討議】実習施設連絡会の開催 （福祉施設の実習指導者との効果的な校内実習について検討）</p> <p>6月 連携大学・専門学校等へ講師依頼 学科内における昨年度までの課題を踏まえた本年度の研究内容等の検討 生徒による事前アンケート用紙作成・実施・分析（自己評価） 【特別授業】介護現場における看護師等による感染症予防策に関する特別授業（3年） 【特別授業】校内レクリエーション発表会 介護福祉士による審査・評価（3年）</p> <p>7月 【特別授業】リモートによる高齢者施設と連携した介護予防体操の実践（3年） 【地域活動】「withコロナ」に対応した地域福祉活動（1～3年） 【研究討議】全国高等学校福祉高等学校長会・福祉担当教員研究協議会 近畿支部会</p> <p>8月 【実践発表】高校生介護技術コンテスト 近畿大会出場 【特別授業】バリアフリー2021 見学会(2年)</p> <p>9月 【特別授業】北欧における持ち上げない介護技術（3年） （介護技術の専門性の向上に関する研究） 【特別授業】リモートによる高齢者施設と連携した介護予防体操の実践（2年）</p> <p>10月 【特別授業】外国人介護福祉士候補者との介護技術交流会（2年） 【特別授業】校内介護技術事例発表会 介護福祉士による審査・評価（3年）</p> <p>11月 【地域活動】介護の日地域福祉啓発活動（1年） 【研究発表】公開授業および研究成果発表会</p> <p>12月 【特別授業】リモートによる高齢者施設と連携したクリスマス交流会の実践（1年）</p> <p>1月 国家試験介護福祉士受験（3年） 生徒対象自己評価アンケートの実施（1～3年）</p> <p>2～3月【評価・分析】 生徒による自己評価と実習指導者の評価の分析・来年度への検討</p> |
| 6 | 見込まれる成果とその検証方法 | <p>大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 I-①【学力・専門性の向上】 ICTやアクティブ・ラーニングを活用して、今まで「身体で覚え、実践で伝える」ことが多かった介護について根拠に基づいて「介護技術を言語化できる能力」や多面的に思考・判断・表現できる力を育むことができる。主な活動として3年生で「介護技術事例検討会」を実施することで利用者のよりよい介護方法についてグループワークを通じて多面的に検討し発表する。 《検証方法》 生徒アンケートにおいて「介護事例について根拠に基づいて介護技術を説明することができた」の項目について、肯定的な回答を70%以上にする。本年度は、新たに実習指導者の方にも「介護事例検討会」に参加していただき、「多面的に思考・判断・表現できる力」について肯定的な回答を70%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】 I-②【学力・専門性の向上】 介護福祉士等の専門職による特別授業や高齢者施設とリモートで繋いだ実習を通じて、福祉施設に出向いての実習施設の学習に代わる効果的な校内における演習・学内実習等の充実を図ることができる。介護福祉士等の専門職やリモート実習を通じて生徒が校内で学んだ介護知識や技術の統合・深化させることができる。 《検証方法》 福祉科教員・実習施設職員に対するアンケートで「実習施設の学習に代わる効果的な校内における演習・学習内容であったか」の項目について肯定的な回答を70%以上にする。また、福祉科教員に対するアンケートで外部講師と連携した特別授業を通じて「教員の指導力や専門性が向上した」の項目について肯定的な回答を80%以上とする。</p> <p>【見込まれる成果3】 I-③【学力・専門性の向上】 資格取得を通じて、生徒一人ひとりが介護福祉に関する専門的な知識・技術を一定のレベルに達していることを確認することができる。具体的な資格として2年生では介護職として働くうえで基本となる知識・技術を身につける介護職員初任者研修、3年生では国家資格である介護福祉士の合格を目標とする。 《検証方法》 資格取得について昨年度に引き続き、介護職員初任者研修修了者率を95%以上、国家資格介護福祉士合格率を90%以上を目標とする。2年生・3年生の生徒アンケート（経年調査）では、「福祉科目の授業に対する取り組みや勉強方法について」の項目で肯定的な回答を昨年度より5%上昇させる。</p> |

| | | | | | | |
|----|------------------|--|-------------|------------------|----|-------------|
| 6 | 見込まれる成果とその検証方法 | <p>【見込まれる成果4】 Ⅱ-①【専門性・実践力の向上】 介護現場における看護師等による感染症に対する標準予防策（スタンダード・プリコーション）の特別授業の開催や体験を重視した授業づくりを充実することで、介護・福祉・医療分野を志す生徒の専門性・実践力の向上を図る。介護実習室における実技や演習についても感染症に対する標準予防策（スタンダード・プリコーション）を踏まえた授業を実施する。 ≪検証方法≫ 生徒アンケートで介護実習室における実技や演習にて「介護従事者の視点に立った感染症に対する標準予防策を意識して実践できたか」の項目について、肯定的な回答を昨年度より5%上昇させた75%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果5】 Ⅱ-②【地域社会との協働・発信】 生徒が学習した介護福祉についてアクティブ・ラーニングを活用して、コロナ禍における高齢者との繋がりを深める地域福祉活動について生徒自らが企画・運営する。地域福祉活動の取り組みを通じて生徒の主体性や課題解決能力の育成を図る。実習施設連絡会を開催し、コロナ禍における地域福祉活動の課題や新たな活動方法を共有する。 ≪検証方法≫ 各学年において新型コロナウイルス感染予防対策を踏まえた地域福祉活動を年1回以上、実践する。また、2年生・3年生の生徒アンケート（経年調査）では、「地域で困っている人に対しての行動」の項目や「ボランティア活動の参加」の項目で肯定的な回答を昨年度より5%上昇させる。</p> | | | | |
| 7 | 研究成果の共有方法 | <p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和4年2月25日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="405 1003 1074 1072"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 3 年 11 月 22 日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立淀商業高等学校</td> </tr> </table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。 大阪市立の高等学校、近畿における福祉系高等学校、関係機関に対して、公開授業および研究協議会を実施する。</p> | 日程 | 令和 3 年 11 月 22 日 | 場所 | 大阪市立淀商業高等学校 |
| 日程 | 令和 3 年 11 月 22 日 | 場所 | 大阪市立淀商業高等学校 | | | |
| 8 | 代表校園長のコメント | <p>福祉ボランティア科は、大阪府内に唯一存在する優秀な福祉人材の育成を目的とした専門学科である。平成15年の学科開設以来、人材育成のため国家資格介護福祉士の合格をめざし、日々の学習や実習に取り組み、16年間の合格率の平均が98.7%（全国60.5%）である。福祉現場では「大阪市立淀商業高等学校福祉ボランティア科」の卒業生がおおいに活躍し賞賛を得ている。</p> <p>昨年度は継続研究2年目として「介護を必要とする幅広い利用者に対する、基本的な介護を提供できる能力の育成」ならびに「未来を切り拓く課題解決能力育成に向けた地域福祉活動」という二つの視点で取り組みを進めた。新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たず、高齢者施設等への介護実習やボランティア活動は断念するしかなかったが、リモートによる介護実習など通常では経験できないことが実現し、新たな教育方法として開発し確立することができた。継続研究2年目の成果である。</p> <p>本年度は継続研究3年目でまとめの年度となり、また、昨年度の研究成果をいかして系統だった職業教育の充実を図るために、「介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力の育成」「介護従事者の視点から新型コロナウイルスなどの感染症に対する標準予防策の実践」「未来を切り開くコロナ禍に対応した地域福祉活動の実践」、この3つの視点をもとに研究を発展的に進めながら、その過程では福祉科で令和2年度入学生から先行実施されている新高等学校学習指導要領が示す授業での「主体的・対話的で深い学び」の確立や、ICT機器の活用ならびにグローバルな視点を取入れた福祉教育に積極的に取組ませ、11月の発表では全国から注目される先進的な研究としたい。</p> | | | | |